



晴海アパートの再現された住戸内部

北正史を考える会

Association of Study on History of Kita-City in Tokyo

会 報
第155号

発行 北区史を考える会

郵便振替 00130-6-47111

第四八九回 月例見学会 4月12日(土)

URまちとくらしのミュージアム見学会

報告 有馬 純雄

「URである」のキャッチフレーズで聞きなじむUR都市機構(独立行政法人都市再生機構)のCMソング。その法人名は知らなくても、その前身が日本住宅公団と言えば、「ああ、あの住宅公団のー」と合点されよう。その歴史資料館「URまちとくらしのミュージアム」が区内の赤羽台団地内に令和5年9月開館し、本会として初めての見学となった。水曜、日曜、祝日、休館日以外の毎日三回の見学会がネットによる完全予約制で実施されている。そこから赤羽台の坂を上り徒歩約8分。団地内の南東になる保存街区に赴き、新たに建設されたミュージアム棟に入った。

保存街区には、団地初の国の登録有形文化財(建築物)となった、一般的に団地建築と言われる「板状階段室型」が一棟、そして通称「スターハウス」と言われる建物三棟があり、これらは入居者なし、非一般公開で保存整備されている。見学会は、ミュージアム棟内のみを、一回の見学者数約20名。女性専任ガイドが誘導と各所の説明を行う約90分のコース。

見学コースのパンフレットには「ミュージアム棟には、歴史的に価値の高い集合住宅4地区6戸の復元住宅をはじめ、当時使用されていた設備や部材なども多数配置されています。充実し

た映像や模型部材をまじえつつ、都市や集合住宅でのくらしやまちづくりの変遷、当時の創意工夫の痕跡を紹介します」とある。
最初に、社会の要請をうけて取り組んできたまちづくりの変遷ビデオ映像を視聴。その後、上層階に移動し、歴史的に価値の高い集合住宅の展示コーナーの見学に移る。

○関東大震災と同潤会

○同潤会代官山アパート单身住戸・世帯住戸

○戦後の集合住宅の歩み

○晴海高層アパート 廊下アクセス住戸・階段アクセス住戸

○多摩平団地テラスハウス

○団地はじめてモノ語り

○UR都市機構のまちづくり

震災後の住宅復興のため建設された同潤会の最初の鉄筋コンクリート造の青山アパートが竣工したのが大正15年。それから約百年経過し、日本人の住居に対する様々な提案を企画、実践、実用化したのが、現在のUR住宅機構の歴史である。日本人の暮らしに理念を率先して提案、提供してきたとも言える。少子高齢、人口減少社会に対する住戸の新たなカタチを担う同社に期待するところだ。

目次

・URまちとくらしのミュージアム見学会	有馬 純雄	…1
・ファッションプレートと北区	伊藤 紀之	…2
・伊藤一美先生とめぐる鎌倉歴史散歩	室岡 裕之	…6
・『十条台』駐屯地ものがたり(三)		
銚包製造所の創立記念碑の台座は行方不明である	八木 司郎	…8